

(2012年度山西大学奨学生レポート5月)

朗読大会

吉田 想陶

五月に入り気温も大分暖かくなってきました。特に暑い日は最高気温が30度を超える日もあり、夏が近づいているのを感じます。今回のレポートでは5月12日に行われたHSK(中国語能力検定試験)について、またクラスメートが参加した中外朗誦大賽(朗読大会)について報告したいと思います。

HSKとは中国語能力検定試験“汉语水平考试”(Hanyu Shuiping Kaoshi)のピンインの頭文字をとった略称で、世界共通の中国語能力検定試験です。私の所属する初級班の多くの学生はHSK四級を受験しました。また、HSKは外国人留学生在が大学の本科に留学の際に必要な条件となっているため本科への入学を希望している学生にとって大切な試験となっています。

HSKの試験内容は聴力、読解、書写の三つのパートに分かれています。私は漢字圏から来ていることもあり問題を見ることの出来る読解と書写は比較的得意です。しかし聴力は他の教科に比べると苦手意識があり、今まで漢字に頼っていたことを痛感しました。今回の試験を通し改めて自分の苦手分野を再確認することで、学習目標を明確に設定することができました。残りの留学生活で少しでも苦手分野を克服できればと思います。

5月24日に山西大学主催の第五回中外朗誦大賽(朗読大会)が開催されました。この大会にはクラスメートの留学生、山西大学の日本語学科の友人が参加したため、私も応援に駆けつけました。この朗読大会には中国の学生と留学生在が共に参加しており、参加者が事前に用意した詩を朗読するというものです。この大会の面白いところは朗読後に学生が歌、ダンス、漫才などの出し物を披露し、この二点の総合評価で順位が決まるというところで、私たち留學生は言葉を聞き取ることができなくても楽しむことができました。

クラスメートは中国での生活をテーマにしたショートコントでその日一番会場を盛り上げていました。私は母国語ではない言語を使い人を笑わせるということはとても難しいことだと感じています。コミュニケーションをとる上でユーモアのある会話は円滑に交流を進める一つの要素であり、こういった能力は授業で中国語を学んでいるだけではなかなか培われないものだと思います。

いつもと違う友人の姿に感化され、私も聴力だけではなく、口語ももっと頑張らなければと思えた一日でした。



朗読しているクラスメートの写真



友人と一緒に中国の歌“想你的夜”を歌っている写真
(応援のために参加したのですが、急遽友人に誘われ一緒に歌うことになりました)